

週報

2025年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

<先週の説教から>

『詩編 52—力ある者よ、なぜ悪事を誇るのか?』 武田真治牧師

詩編 52:1~11 ヨハネ手紙 I 5:1~5

この詩編のタイトルは「ダビデの詩、マスキール」とあります。このマスキール(=教えの詩編教示の詩編)という名前が付けられている詩編は、全体150編中、13の詩編しかありませんが、その内、この52から55編までの4つの詩編すべてに付けられています。この類いの詩編は、この世の中の様々な状況の中でどう信仰を持って生きていけば良いのかを教え、導くというテーマを持っています。その意味で「教訓詩」という名を付ける解説者もいます。

この52編の書き出しも「力ある者よ、どうして悪事を誇るのか」と始まっています。通常の詩編では、例えば「主よ、祈りを聴いてください」とか「あなたのみ業はいかに素晴らしいか」など、神様への語りかけや讃美の言葉から始まるのがほとんどですが、ここではこの世の支配者、権力者への呼び掛けから始まっているのです。この後も「お前の考えることは破滅をもたらす」と権力者への罪の告発となっています。この権力者が「だれか?」という点については、2節のタイトルから見ると、ダビデの逃亡を密告した兵士ドエグ(その手柄で賞賛され出世した)やサウル王(そのドエグの密告に従い、祭司アヒメレクとその家族をダビデに味方したという罪で皆殺しにした)のことを指していると言い得ますが、更に、その世の支配者が「お前は善よりも悪を、正しい言葉よりもそを好み、人を破滅に落とす言葉、欺く舌を好む」と、「うそや悪しき言葉を操る」姿を問題にしていますから、後のキリスト教会の歴史の中では、この人物こそイスカリオテのユダのことがこの詩編で預言されている(偽りの舌=イエス様を背接吻で裏切った)と読まれて来たのでした。そして、この後の言葉は、神様がその悪しき者を打ち倒される様子を「見て、神に従う人は神を畏れる」であろうと続いており、いかにも教えの詩編・教訓詩となっていると言い得ます。

その上で、神様を信じることへの「奨めや教え」の言葉に

向うことになりそうなのですが、実はそうなっていません。

この後(10節以下)は「わたしは生い茂るオリーブの木。神の家にとどまります。世々限りなく、神の慈しみに依り頼みます」と続きます。これらの言葉は、教えや教訓ではなく、また、祈りや讃美でもありません。むしろ“信仰告白の言葉”と言い得るのです。ここから考えさせられることは、信仰者の本来の在り方は、世の中の人々に対して、教えや教訓を垂れて行くことではなく、自分の思いや生きる姿勢を“告白=証し”していくことに在るのではないかと教えられます。

私も、生涯「一本のオリーブの木として、神の家(=教会)に留まり続ける者でありたい」と心より願います。

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 7月9日(水) 20:00
II. 7月10日(木) 10:30

聖書研究: ローマの信徒への手紙

祈祷主題: 壮年会の活動を覚えて

担当者: (水) 浦野 (木) 中澤

祈りに覚える人: 保坂さん 細川さん

【教勢報告】

主日礼拝 男16 女39 計55

祈祷会 I. 男4 女3 計7 II. 男1 女6 計7

日曜学校 幼稚科9 小中科6 計15

【次週・創立65周年記念礼拝】 7月13日(日)

聖書: 創世記 15:1~6

使徒言行録 16:6~10

説教: 「創立記念礼拝—その日、かの人
幻を見て!」 武田真治牧師

讃美歌: 394(1~3)、32、聖歌隊(391)、413、51、

【次週当番表】 28(1)

司式: 茨木長老 奏楽: 中村 礼拝: 齋藤長老

献金: 杉村 鈴木 受付: 鈴木 橋本

会堂準備: 飯島 岡本 金刺 中村

森本

看板: 岩佐 週報: 金刺 お花: 茨木

【次週集会予定】

礼拝前: ・聖書輪読会 ・求道者会

礼拝後: ・創立65周年記念祝会

・創立65周年記念コンサート 13:30~

2025年 7月 6日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549